

美を創る

上京の史蹟⑫

上京区民新能

上京区民ふれあいまつり
京都まつり

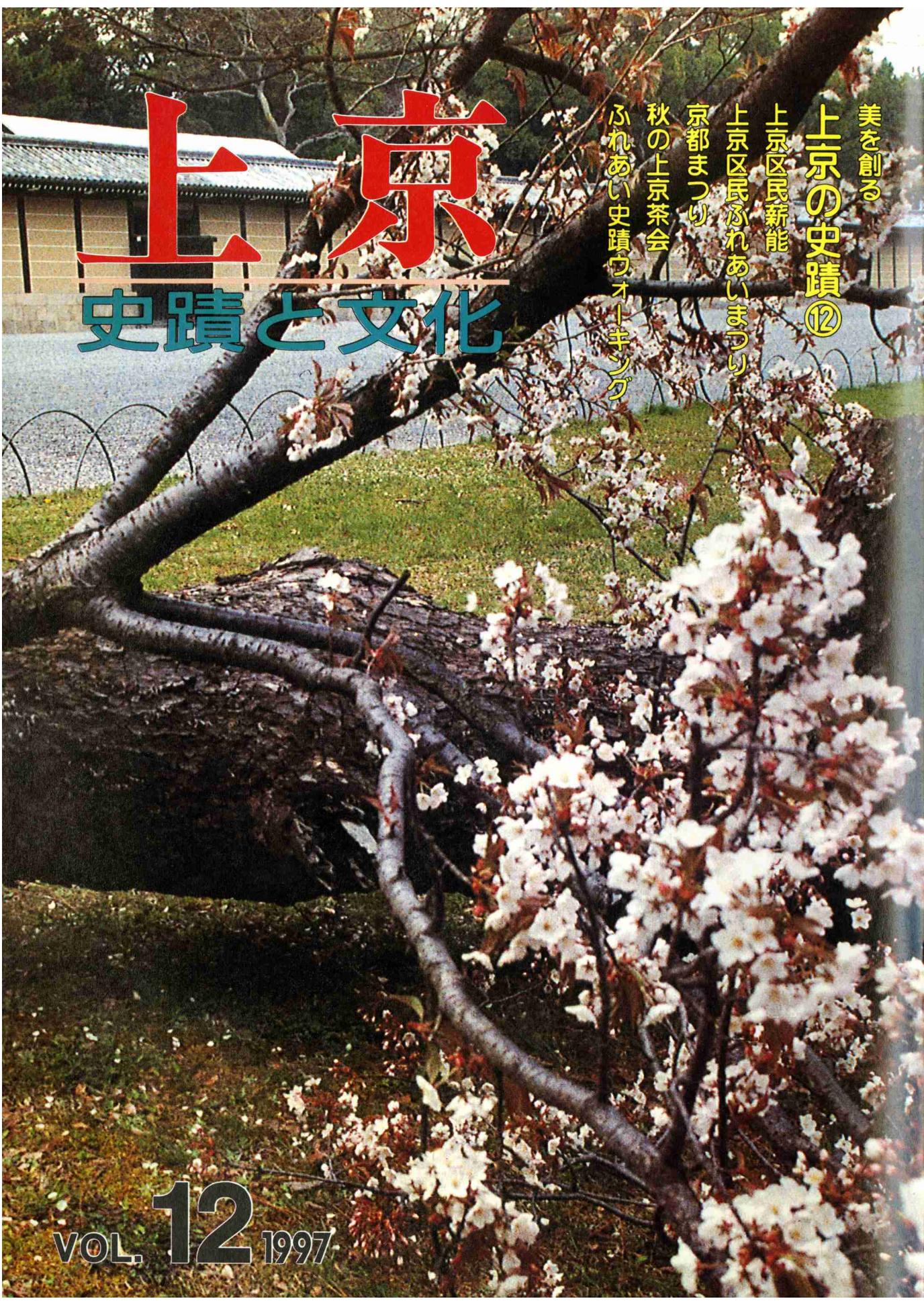
京都まつり

秋の上京茶会

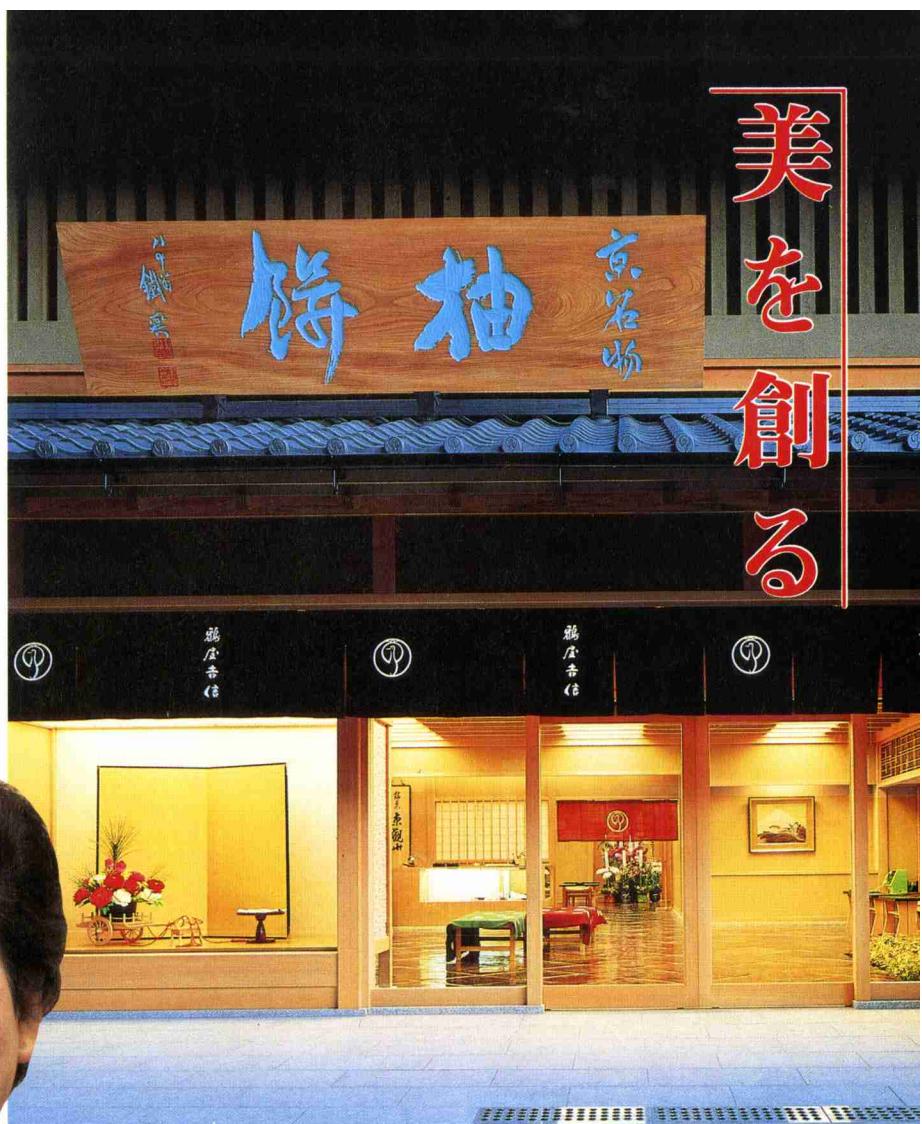
ふれあい史蹟ウォーキング

上京 史蹟と文化

VOL. 12 1997



美を創る



菓匠



柚餅老舗

六代当主 稲田和子

京都市上京区今出川通堀川(西陣船橋)

鶴屋吉信

文：中島孝廸

宫廷文化の「雅び」と茶道の美意識とに育まれた京菓子。それは王朝の昔より伝統文化によって培われてきた京都ならではの食文化である。

上京区今出川通堀川、西陣船橋の地に古都の景観を配慮し、町家の様式を生かし、数寄屋建築の粹を採り入れたビルが聳えている。これが、十九世紀初頭以来、一九〇年余の

永きに亘り京菓子一筋に
伝統の暖簾を守ってきた

鶴屋吉信の本店である。

西陣船橋は、この辺り

に公家の舟橋家の屋敷があつた所からこの名が付けられたといわれ、また、

室町時代「応仁の乱」の

おり、東西両軍が対峙し、

堀川に舟を並べ橋とした、
という伝説から地名になつたとも伝えられる。



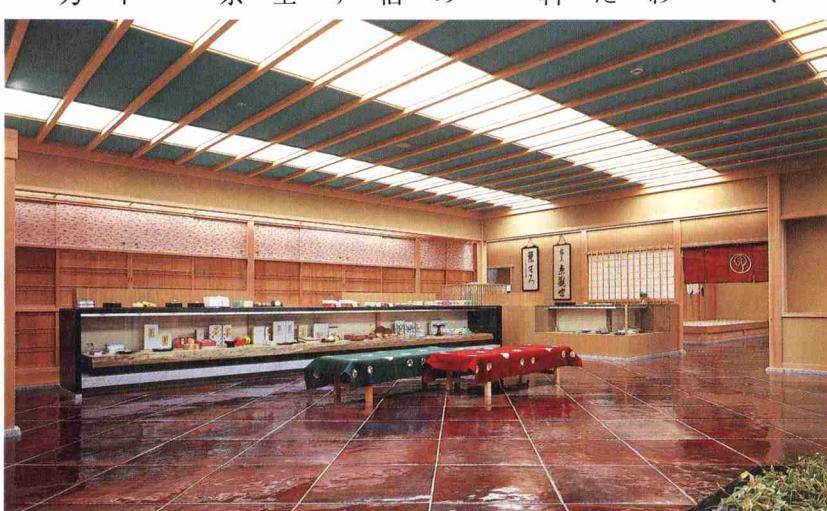
彼は、第二次大戦中、軍人として南方戦線で戦い、九死に一生を得て帰国、その後の生涯を京菓子匠「鶴屋吉信」発展のために尽くされた。そして、平成三年にはついに年商百億円を越す大企業に育じられたが、その精神は未亡人である現社長稻田和子氏に受け継がれ、京菓子文化発展のため、全社員の中に脈々と流れている。

「ヨキモノヲツクル為ニ材料、

手間ヒマヲ惜シマヌ事」

これは、鶴屋吉信に代々伝わる家訓の一条である。優れた京菓子を作るため最高の材料

を用い、あらゆる犠牲を払つても研鑽を怠るなと言う戒めであろう。吉兆の「吉」と信
用の「信」を屋号として採り入れる鶴屋吉信。こんにち全
国的にもその名を知られ、京
菓子文化の偉大なる遺産に、
より一層の磨きをかけ、二十
一世紀に受けわたすべく全力
を尽くしておられる。



上京の史蹟

その十二

上京の歴史的推移

京都を救つた人々（明治その五）

今日、京都をとりまく環境は、非常に憂慮すべき状態にあります。基幹産業である西陣、室町を始めとする和装織維業界は、長期に亘る構造的不況にさいなまれ、これの脱出に日夜頭を悩ましています。しかし、これといった秘策は見当たらず、ただ時間のみが無情に過ぎ去つて行くのが現実の姿ではないでしょうか。今こそ、京都の人々が心を一つにして現状を打破し、新しい京都の建設に立ち上がるなくてはなりません。

これとよく似た状態が、明治初期の京都に訪れています。

明治改元とともに、わが国はかつての幕藩体制による封建国家から近代國家へと転換を計り、政治、経済は言うに及ばず、あらゆる面での大改革が行

われました。その結果、明治政府は、文明開化の名の下に、西洋文明を基盤とした新しい思想や教育制度を採り入れ、わが国を西洋近代国家と同じレベルに引き上げるべく必死の努力をしたのです。

このような大改革の中で、わが京都は、平安京の造営以来、千年余りの長きに亘り、政治、文化、学術、その他、すべての中心地であったのが、明治二年（一八六九）、天皇の東京遷都によって、瞬時に未曾有の危機に晒されました。遷都によつて人口の移動は、当時三十五万の京都市の人口がその三分の一の二十万人余りになつたといわれています。街々には空き家が目立ち、産業は停滞し、都市機能は完全に停止して、まさに廢都寸前の状況であつたと伝えられます。

「時勢、人物を作るか。人物、時勢を作るか」と、言われますが、この憂慮すべき状態を覆さんと必死に努力を

した人々がいます。それは、行政官では第二代目の知事であつた榎村正直、三代目知事の北垣国道であり、一般市民では、山本貢馬、濱岡光哲を始め田中源太郎、内貴甚三郎など、多くの人々であります。彼等は、真に京都を愛し、京都を憂い、生命を賭けて行動を起こしたのです。中でも、この危機を覆し、京都を産業経済都市として発展させるため、瞬時も休むことなく、力を注いだ一人が、濱岡光哲です。彼はまず、新聞事業を起こし民衆に情報を伝え、次いで、商工会議所を設立し業界の指導に当たりました。その他、取引所の設置、商工銀行の創立、織物、陶器、倉庫、貿易、鉄道の経営など、その活躍は枚挙に暇がありません。

濱岡光哲

濱岡光哲は、嘉永六年（一八五三）

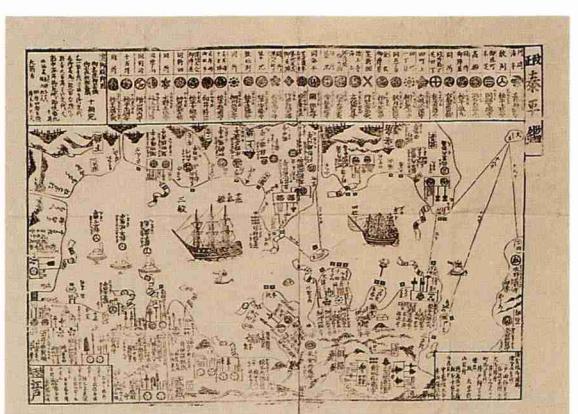


明治十五年当時の濱岡光哲（濱岡家蔵）

五月二十九日、嵯峨大覺寺の内外の事務一切を司る野路井盛彰の三男として生まれました。野路井家の先祖は南北朝時代、後龜山天皇の皇子小倉宮を奉じて南朝の皇統を回復させるため尽力を惜しまなかつた公家の日野宥善であります。その後、後龜山天皇が嵯峨の大覺寺に仕え、歴代大覺寺の要職を受け持つたと伝えられています。

光哲の生まれた嘉永六年は、六月三日にペリー提督率いるアメリカ艦隊が

嘉永六年六月
黒船来航時の各大名配備図（濱岡家提供）



浦和沖に姿を現し、国内は泰平の夢破れて、上を下への大騒動になった年です。以来、わが国は幕末騒乱の時代に突入し、中でも、わが京都はその舞台となつて血で血を洗う血腥い政争の場と化したのです。光哲は、こうした時代に少年時代を送っています。

彼の父盛彰は、疲弊していた大覺寺門跡をかつての盛時に復興させるため志し半ばにして病に倒れ、安政五年（一八五八）九月、四十一歳の生涯を閉じます。時に光哲五歳の秋でした。

父亡き後、彼は母の手一つで育てられています。母は、二十一歳で野路井家に嫁ぎ、以後三年間一度も実家に帰ることなく夫に仕えたという賢夫人で、夫亡き後は五人の子供（三男二女）の教育に力を注ぎます。従つて、光哲は、五歳の時からこの母について四書（儒教の四經典。論語、孟子、大學、中庸）の素読を学び、武士の子弟としての教育を受けました。十三歳の時には、当時、肥前の漢学者として名を馳せた大覚寺のお抱え儒者、野口左門について経学詩書（儒教の經典、詩書・五經と詩作や書道の勉強）を学んだといわれます。

明治元年（一八六八）、十五歳に成

長した光哲は、京都御所において法要・仏事に関する経費出納のご用を勤める濱岡家に養子として入籍します。濱岡家の遠祖は、平家物語で有名な平經正と伝えられ、四国生島に領地を持つていましたが、江戸時代の初め、京都に上り御所に仕えたと言われます。その頃、徳川幕府の実力者天海僧正と親しくなり、天海の依頼によつて朝廷と幕府との間の機密の連絡を取つていたようです。そのため朝廷、幕府双方に人脈があり、それが後に光哲の活躍に多大の影響を与えたものと思われます。

光哲が入籍した当時の当主は濱岡光恒。御所から賜つた領地と、将軍家からの用向きを勤めていたので生活には事欠かず裕福でありました。光恒は、もともと医学で身を立てるべく修行を重ねていましたが、兄が急逝したためその志しを捨て家督を相続しました。従つて、蘭学にも秀で、科学的な知識を身に付けた人でありました。またその一方で茶道や和事に対する造詣も深く、東西両文化を合わせ持つなど、當時としては理想的な人物であつたようです。野路井家では母から士族としての充分な教育を受け、濱岡家に入つてからは義父の科学的教育を受けた光

伊藤古義堂に入門し、伊藤徳蔵、介夫氏に師事して経書を学びます。そのほか、政治、経済、法律全般に関する学問に専念しますが、同時にドイツ語のと伝えられ、四国生島に領地を持つていましたが、江戸時代の初め、京都に上り御所に仕えたと言われます。その後頃、徳川幕府の実力者天海僧正と親しくなり、天海の依頼によつて朝廷と幕府との間の機密の連絡を取つていたようです。そのため朝廷、幕府双方に人脈があり、それが後に光哲の活躍に多大の影響を与えたものと思われます。

（○）は新興ドイツがナポレオン三世を撃ち破り、国威を世界に轟かした年であった。私はドイツ学を修め、その法律、政治を研究し、自分自身の政治、経済、法律に関する意見を持ちたかったのである。そして、その意見を政府に具申し、政府がこれを用いない場合は、学者として天下の世論を指導したいと思っていた。云々

時に光哲十七歳のことです。

ドイツ語をマスターした彼は、神戸に赴き、従兄弟の田中源太郎の知人である小林全信に師事して英語の勉学を始めます。今日では考えられない事ですが、当時は、まだ攘夷思想の残つていた頃なので、士族のものが外国人の数多い神戸などに行くには、前もって

官庁に届け出て往来券なるものを取得するなど、大変面倒な手続きを必要としました。

明治七年（一八七四）、光哲は、当時京都在住の有識者としてばかりでなく、京都府の顧問としても有名であった山本覚馬の門を叩きます。光哲二十二歳、覚馬四十六歳、年齢的には親子ほどの差がありましたが、山本は快く光哲を招き入れ、天下の形勢を論じ、現在わが国が置かれている立場と、対処について詢々と説いたといわれます。

明治十年（一八七七）秋、西南戦争は終結しました。明治天皇とともに凱旋の途中京都に立ち寄つた三条實美や岩倉具視たちは、故郷である京都の荒廃を目の当たりにし、その復興に頭を痛めます。岩倉は濱岡光恒とは旧くから親交があり、そうした関係から光哲の噂を聞いていたので、京都出発の前日、光哲を京都の自宅に招き、

「東京遷都以来、わが国の繁栄は東京に集まり、有為の人材もまた争つて中央政権のもとに参集した。そのため

地方の不振ははなはだ憂うべきものがある。殊に京都のように千年の帝都であつた都市が、現在のごとく退廃していられるのを見るに忍びない。これは、たゞ単に私たちの故郷としてのみではなく、日本国のためにも大変な汚点といわざるを得ない。真にわが国の将来の発展を考えるならば、東京と京都が、東西相呼応して両京が相並んで健全な发展を遂げねばならない。そのため君のように将来を嘱望された若者が一身を賭して京都の進歩发展のため全力を尽くしてほしい」

と、頼みます。維新の大業を補佐した

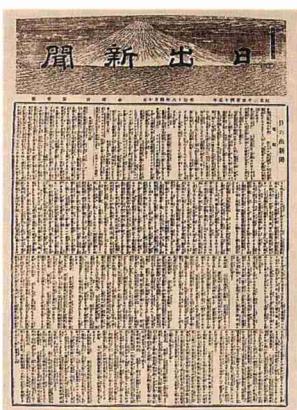
岩倉具視のこの言葉は、弱冠二十五歳の光哲の魂を揺さぶり、京都の繁栄のため全力を結集することを誓うのでした。

☆新聞事業

わが国の新聞事業は、文久元年（一八六一）に発行された『バタビヤ新聞』、それに次ぐ元治元年（一八六四）の『新聞紙』が最初だといわれています。元治元年以来、内外の状況が激しく変化するのに伴い、新聞の創刊が続出します。しかし、関東で発行される新聞はおおむね佐幕主義的な主張が多く、関西系のものは尊王主義的特徴を持つ

明治十八年四月十日（金）
京都日出新聞第一号

京都日出新聞第一号附録



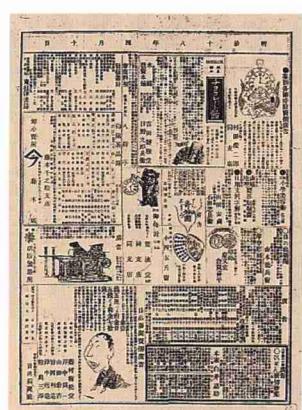
ていました。

明治十年、西南戦争が勃発するや、新聞の創刊もまた活発化します。特に、京都においては、明治天皇の京都滞在などがあり、『西京新聞』、『平安新聞』、『京都日々新報』など、新聞界はがぜん活気づきます。しかし、事件が終息すると同時に、『西京新聞』のみを残し相次いで廃刊し、新聞業界は火の消えたような状態となりました。こうした状況を目の当たりにした光哲は、報

道の真の目的である一般市民に対する情報の提供と、意識の啓蒙とを考え、明治十二年（一八七九）、『京都新報』の発刊を決意したのです。

『京都新報』は、言論の公正、報道の迅速、内容の豊富さを特色としていました。中でも京都が力を入れている殖産興業事業の重要さと、その発達過程を府市民にわかりやすく報道することによって、民衆の自覚を促すことを目的としました。また、それと同時に、

世界の大勢を通してわが国のおかれている立場を明確に知らすこと目的としたのです。そのため、政党政派の色彩を徹底的に排除し、公正なる報道に徹したといわれます。というのも、当時、京阪神の新聞は殆んど政党に組みし、「大阪新報」「神戸新報」は改進党の機関紙となり、「大阪日報」は自由党の色彩を帶び、「大東日報」は帝政党の御用新聞となつたのです。



光哲のこうした毅然とした態度は、やがて官憲を刺激し、「中外電報」に

対する圧力が激しくなり、発行停止の処分が年間八回にも及び、編集長は投獄九回、罰金刑數十回という異常の事態となりました。この事態に対応するため、身替り新聞を発行します。身替り新聞とは、一新聞社で二種の新聞を発行し、片方が発行停止になったときもう一種を発行して停止期間中読者に配布する方法です。当時は各新聞社ともこのような事態がしばしばあったので、それに対抗するため身替り新聞を発行しています。

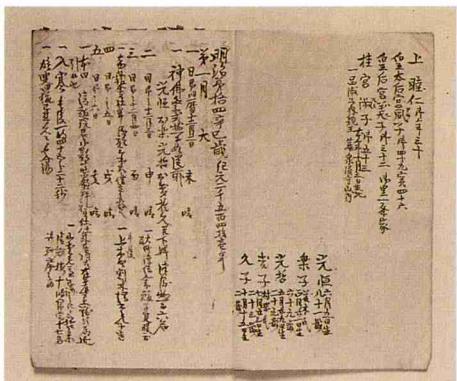
明治十八年（一八八五年）四月十日、

光哲は止むを得ず身替り新聞『京都日出新聞』を創刊します。この新聞は『中外電報』とはまったく内容を異にし、趣味的な記事を中心に編集されました。その後、一般読者も政論的なものに興味が薄れ、趣味を中心に掲載する『京都日出新聞』に傾き出したのを契機に明治二十二年（一八八九）、『中外電報』を廃刊し、身替りであった『京都日出新聞』が、関西の有力紙として健全な発展を遂げたのです。

☆京都商工会議所の設立

新聞事業の経営と並行して、光哲が着眼したのが京都商工業の中軸となり、道標ともなるべき商業会議所の設立で

明治十四年 濱岡光哲の日記
(濱岡家蔵)



「商法の基本調査のようなものを行ふためには、商業会議所を設立するのが急務である。もし知事がこの事をご理解願えるなら、私は直ちにその準備に入ります。商業会議所の設立は、ただ単に商法の調査だけではなく、商工業発展のためわが国が今後、海外貿易、国内取り引きなどを行う上で情報機関となると思います。また、商工業者の大団結による製品の向上と価格の維持には、会議所の存在が欠くべからざるものとなりましょ」と、意見を具申しました。

この意見の背景には、当時の国家財政の危機的状況が上げられます。特に、明治政権誕生後、東北地方鎮撫の戦費や西南戦争の軍費、その上、新國家建設の費用など莫大な歳出が計上されました。時あたかも、政府は商事に関する全国統一の法制を布くべく法案を練つていたのです。即ち、商法の制定であります。

明治十四年（一八八二）、政府は太

政官に商法編纂委員を置き、各都市の商事習慣を調査し始めます。これを受けた京都府も、直ちに商事諮問会を設け、光哲を始め市内の有識者五十名を集め、その意見を聞きました。このとき光哲は当時の北垣知事に対し、

うためには、商業会議所を設立するのが多く、市内でも屈指の商家の主人といえどもなかなか理解を示さなかつたようです。それだけに光哲を始めとする発起人の苦労は大変なものでした。

その後、明治十八年（一八八五）五月、高木文平が辞任するに及び、山本覚馬が二代目会長に就任、同年十一月、山本が健康上の理由で辞任した後、三月十四年（一九一一年）の期間を除き、殆んど全生涯の半分以上を京都商工会議所の会頭としてその経営に全力を傾けたのです。

（以下次号に続く）

上京区民薪能



能 土蜘蛛

第一部の上京区民による舞囃子や仕舞、琴の演奏が午後四時から始まり、六時から第二部に入りました。まず、いちひめ雅楽会による舞楽「蘭陵王」、宮城会の琴演奏につづいて浅井宏丞・種田道雄両師らの仕舞七番、河村晴夫氏の舞囃子「船弁慶」、茂山千作師ら一家三代による狂言「茶壺」が演じられ、最後にシテ河村禎二師の能「土蜘蛛」で豪快に蜘蛛の糸が繖かれて、重要無形文化財の芸を堪能しました。

第三十二回「上京区民薪能」は九月二十日に行われましたが、あいにくの雨のため会場を河村能舞台に移し、立錐の余地もない七百人が至芸を鑑賞しました。

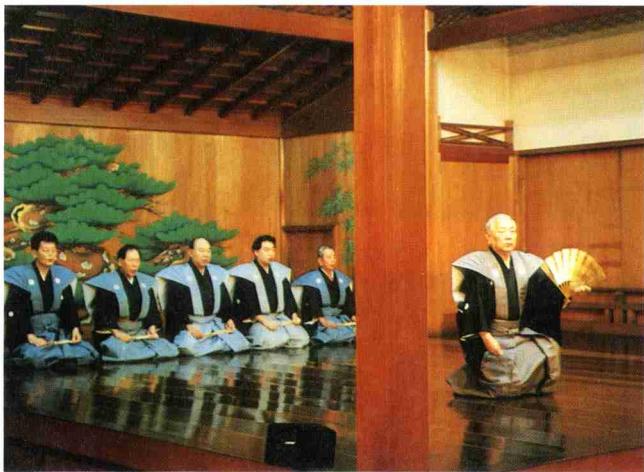




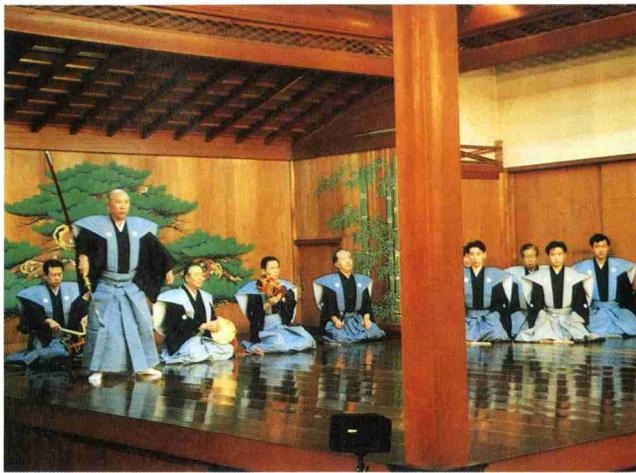
舞樂 蘭陵王



琴演奏 宮城会



仕舞 経正



舞雛子 船弁慶



仕舞 菊慈童



狂言 茶壺

EVENT

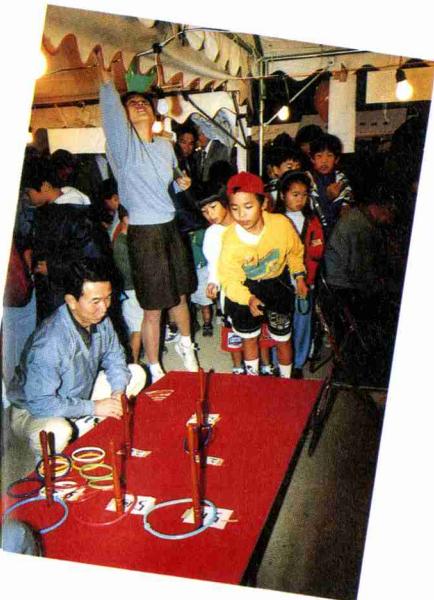
第6回

「京都まつり」前夜祭

上京区民ふれあいまつり

「上京区民ふれあいまつり」も六回目を迎え、「京都まつり」の前夜祭として、十月二十六日に嘉楽中学校の校庭を会場として行われました。御所の猿ヶ辻を主題としたフロートは、猿がスペースシャトルに乗った超現代調で、子供たちの人気的でした。

会場狭しと訪れた七千人の上京区民は各団体の模擬店や催し、ステージにくりひろげられる演技に秋の半日を楽しく過ごしました。



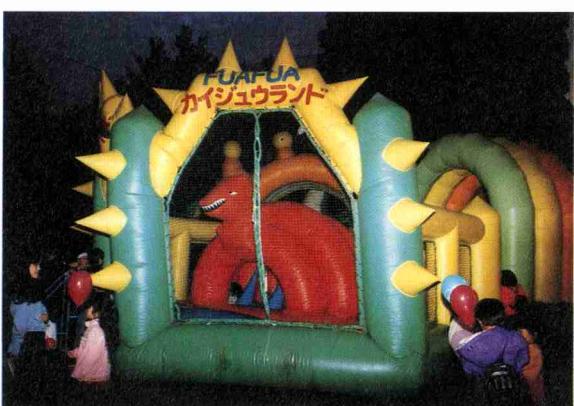
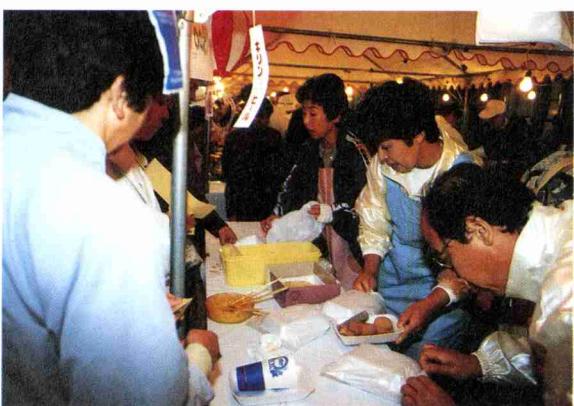
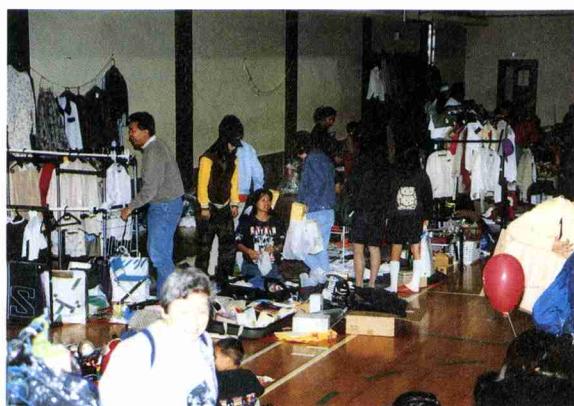
花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。

FLOWER OFFICE
花工房

全国どこへでもお花をお届けいたします。
京都市上京区烏丸通今出川下ル 〒602
TEL. 075-414-8700(代) FAX. 075-414-7787

菓匠 本家玉寿軒

〒602 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319
(075) 414-0319



外科・胃腸科・小児科・整形外科
肛門科・小児外科・泌尿器科・放射線科

吉岡病院

診療時間 午前9時～午後12時半、午後6時～午後8時

土曜 午前9時～午後12時

日曜、祝日、土曜午後 休診

〒602 京都市上京区浄福寺通今出川下る

☎(075) 451-0164

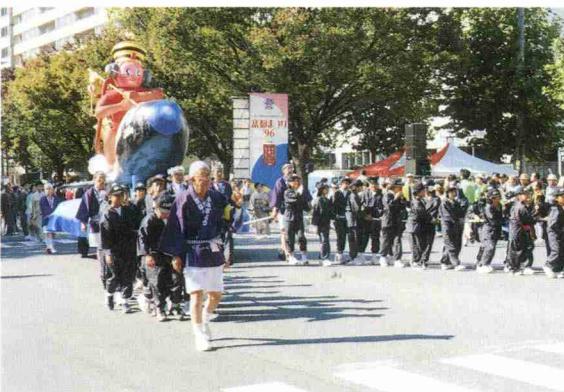
銘菓 山菜煎餅
株式会社 雅苑®

〒602 京都市上京区相合園子通下立売上ル東入
TEL (075) 461-2644 (代表)
FAX (075) 464-9353

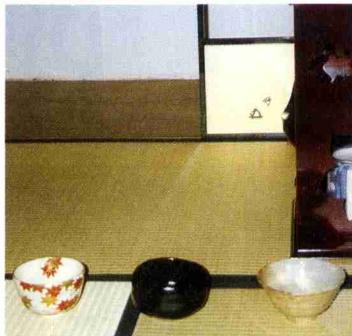
京都まつり

京都市民の文化の祭典「京都まつり」も第三回目を迎えて、十月二十七日に御池通を会場として盛大に行われました。約八十団体、一万人の都大路パレードには、上京区も「上京の昔話」とし

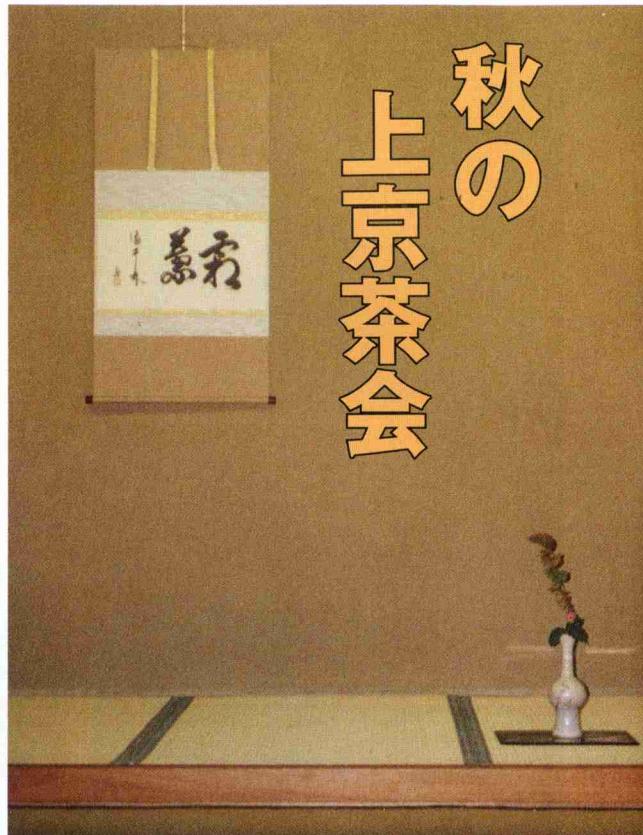
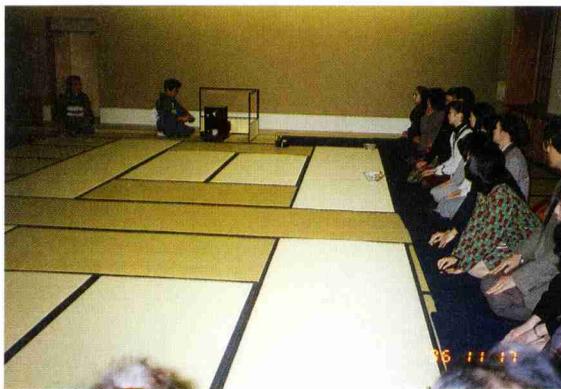
て御所の猿ヶ辻の猿をテーマとしたフロート中心に、三百人の上京区民が参加しました。恒例の和服姿の行進には「さすが上京」という声も聞かれたよう



秋の上京茶会



平成八年秋の上京茶会は、十一月十七日に裏千家茶道研修センターにおいて、淡交会京都南支部の懸釜により行われ、裏千家伝来の茶器を賞でながら六百人が一盃の茶を喫しました。



会記（本席）

寄付床 大亀老師画贊 時雨をいそぐ紅葉の絵

会席床 鵬雲斎御家元筆 霜葉満千林

花入 時代牡丹浮彫 初笑椿 椿

香合 玄々斎好 筆柿 開芳造

風炉先 鵬雲斎御家元好 吉甲松

風炉面 取土風炉 宗芳造

釜筒 桐地紋 吉兵衛造

水指 淡々斎好 秋泉棚 与斎作

薄器 平 蔦の細道 宗元造

茶杓 玄妙斎作 銘梢の錦 表完造

茶碗 鵬雲斎御家元箱 和蘭 半七造

替 平 蔦の細道 升盛造

蓋置 鵬雲斎御家元箱 出雲燒 空權造

建水 南蛮焼メ 净益作

茶 嘉々の音 松籜園詰 長左衛門造

菓子 木枯 鶴屋吉信製

火入 赤絵 真葛焼 宗旦好 手付丸

織部 善五郎造 宗明造

夷川五色豆



豆 政

本店／〒604 京都市中京区夷川通堺町東
TEL.075(211)5211~3
三条店／〒604 京都市中京区三条通河原町東
TEL.075(255)0390

イタリアが好き！
イタリア料理専門店

レストラン

フクムラ

河原町店 中・六角河原町東入 255-5733(水・休)
四条店 中・富小路四条上ル 255-2060(火・休)
(株)イタシヨク(イタリアワイン・食品輸入元)(小売歓迎)
北・紫野大徳寺門前町 491-0900

ふれあい史蹟ウォーキング

表紙写真

京都御苑の桜松

六回目となつた「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」は上京区の北部一帯で、十一月二十四日に三百七十人の参加を得て行われました。今回は「西陣を歩く」をテーマに、擁翠園（京都貯金センター内）、妙蓮寺、京都市考古資料館の三カ所を集合地として、ガイドマップを手に四キロを歩きました。

近くにありながら見学の機会が少ない史蹟であったところから好評で、後日ふたたび訪ねた人もあつたようです。



(出雲路敬直)

京都御所と大宮御所の築地塀が触れるあたりに不思議な松がありました。枯れたクロマツの幹に五本のヤマザクラが宿り木となつて咲かせていました。満開の昨年四月十七日早朝、突然倒れてしましました。表紙は写真家の浜岡昇氏がその後に撮影されたもので、左の写真も前日の昼過ぎに筆者が写した珍しい写真です。

空洞が腐葉土となつて桜は元気に育っていますから、今年も倒れたまま美しい花を咲かせることでしょう。

上京クイズ

前回の正解は 千本えんま堂狂言



読
者
の
声

- 各国留学生の話は大変参考になりました。
（成逸・岡本邦久）
- チンチン電車の写真をなつかしく想い出しました。あの電車で出征兵士を送りました。
（仁和・唐田利二）
- チンチン電車は私が高校に通っていた頃、毎日乗っていたので、なつかしく思いました。
（翔鶴・井上淑子）
- 京電時代の珍しい写真を大変興味深く拝見しました。（室町・島田長太郎）



これはどこでしよう？

○ 正解者の中から抽籤にて二十名の方に記念品をお送りします。

○ 締切 平成九年四月十五日

○ 正解と住所・学区・氏名・電話番号を記入の上

〒六〇二 京都市上京区今出川通
室町西入 上京区役所地域振興室
「上京・史蹟と文化」宛にハガキでお送り下さい。また本誌の読後感もお書き下さい。

編集後記

千本吉山寺上ルの引接寺は千本閻魔堂として知られていますが、ここに京都の大念佛狂言の一つ「千本えんま堂大念佛狂言」が伝えられています。閻魔大王によって現れた数々の不思議を一般に伝える手段として始められたといい、壬生と神泉苑の狂言が無言劇であるに対し有声劇であるところが特色です。写真は「寺譲り」の一場面で、境内の普賢桜が盛りの五月一日から四日まで公開され、京都市無形民俗文化財に登録されています。

▼「上京・史蹟と文化」も十二号、一ダースともなりますと、ますます重味が増してきました。年二回の発行を首長くしてお待ちいただいている様子が、上京クイズの添書によって、ひしひしと感じられます。

▼次号から八月と二月に発行月をくり上げて、上京区の行事の成果を新しいうちにお目にかけられるようにしたいと考えています。

（い）

永年の信用と実績・真心のこもったご奉仕

葬祭センター

京都 公益社

本 社・京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4116代

北 公 益 社・京都市北区紫明通堀川東入 ☎(075)431-7121代
中 公 益 社・京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)551-0042代

南 公 益 社・宇治市横島町・文教短大前 ☎(0774)20-0042代

滋賀公益社・大津市朝日が丘1丁目 ☎(0775)23-0042代

ライトホール京都・京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代

横島会館・宇治市横島町・文教短大前 ☎(0774)20-0142代

断ちきろう 身近な差別を 私から

「ヨキモノ」を創る

銘菓

京観世

登録商標



鶴屋吉信名菓撰
(登録商標)



菓匠



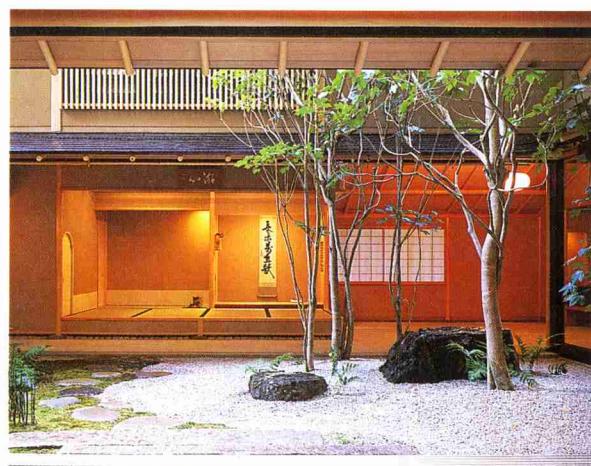
柚餅老舗

鶴屋吉信

本店／京都西陣今出川堀川 電(075)44-1101-05
世田谷店／世田谷区世田谷一 電(03)3442-6171-55

茶菓いろいろ
お休み処・菓遊茶屋

本店二階にて営業いたしております
(毎週水曜日は定休日でございます)



●本店内二階 茶室 游心